海老名市立中新田小学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第3回)

- 1 日時 令和5年2月27日(月) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立中新田小学校 生活科室
- 3 出席委員 笠原祐治委員長、檀浦かおり副委員長、藤井利秀委員、猪飼誉之委員、井出誠司委員、山本源委員、蕪木扶由美委員、小菌洋委員、宮下翔太委員
- 4 会議の内容
 - (1) 委員長挨拶
 - ・これまでの学校運営協議会を振り返って
 - ・学校経営方針を承認したことは、教職員と一緒に学校運営に携わっていくということ
 - ・自分の立場でなら、こういうことができるという視点で今回もよろしくをお願いします
 - (2) 学校長挨拶
 - (3) 今年度の学校教育活動及び学校教育アンケートについて
～教育活動に関するアンケートについて～

小菌教頭：「教育活動に関するアンケートの結果について」説明

笠原委員長：子どもたちが学校に楽しく来ていることは嬉しいこと。体力づくりが課題。

藤井委員：自分の思いを伝えることに消極的である点については、何でも言われたことをやるのがよいのではなくて、ビジネスでも指示待ち人間はよくないことはわかっている。

猪飼委員：体力づくりについては、コロナが収まれば、できてくるのではないか。児童回答2「自分の学年の勉強がわかるように自分なりに努力して勉強した」では、「あてはまる・だいたいあてはまる」が約90%ではあるが、「あてはまる」は46%であるから、そこを自信をもって勉強に取り組んだといえる子たちを育てたい。さらに、児童回答7「友だちが困っているとき、助けたり声をかけたりできた」でも、「あてはまる・だいたいあてはまる」が約90%ではあるが、同じように「あてはまる」子たちを増やすようにしていく必要がある。

井出委員：困ったときに言えない児童に関しては、やはり教師がアンテナを張り、こちらから子どもたちの様子を見ていかねばならないと感じる。

山本委員：体力づくりを改善すれば、生活習慣も困ったときに相談することもできるようになると思う。それくらい、体力づくりは大切だと思う。

蕪木委員：わが子も外遊びをしないときは、外に連れ出すようにしている。今は縄跳びをやっており、目標をもって取り組んでいるので、今後も学校で朝休みとか縄跳びをやっていただけるとありがたい。

笠原委員長：今、外ではマスクはつけるのか。

小菌教頭：外すよう話している。

檀浦校長：それでも外さない子もいる。

山本委員：外国では、受験内容に体力の項目があり、重要視していると聞いた。日本もそうになるとよいが。

笠原委員長：マスクも含めて、来年は体力づくりグループが進めてくれることでしょうか。

檀浦校長：体力が上がると、自己肯定感の向上につながるという研究結果もある。自信にもつながる。

笠原委員長：県立学校で、朝ご飯を食べていない子に朝ごはんを提供する事業がある。「早寝・早起き・朝ごはん」はもっとアピールしたい。また、思いやりをもつ児童が多いのは、なかつち掲示板に貼ってある、年4回行っている道徳朝会の成果でもある。

檀浦校長：そのうち1回は、えびな支援学校の先生にお越しいただき、「みんなちがってみんないい」というお話しをしていただいた。

笠原委員長：祭りとか地域の行事には、子どもたちはたくさん来るか。

藤井委員：まだまだです。地域の行事もまだ元通りではない。

檀浦校長：夏祭りでは、海老名高校のダンスクラブに来て踊っていただいた。

藤井委員：感染対策で規模を縮小していたので、今後は元通りになっていくと思う。

～令和4年度全国学力・学習状況調査結果について～

小菌教頭：「令和4年度全国学力・学習状況調査結果について」説明

蕪木委員：子どもたちは、自分で考えて書くのは苦手だと思う。やってみてわかることは身につけてきているし、調べたことも身につけてきている。

山本委員：改善点として、子どもたちが学習に関心を示すような、楽しい授業を先生方がつくっていくと言われたことが印象的です。自分の子どもの頃はそんなことはなかったと思うので。

猪飼委員：失敗を恐れる、白紙回答に見られる子どもたちの状況は高校生でも同じである。職員には、「子どもたちが安心して、思ったことを言い合える雰囲気をつくりましょう。」と伝えている。学年が始まり、早い時期にその雰囲気をつくるのがとても大事だと思う。

井出委員：「違っていいと認め合う」ということを当たり前にすることが大切。

藤井委員：朝の会のスピーチは、何でもいいから伝えることが大事。熱心さがあればどうにかなる。松下幸之助の言葉を借りれば、「知識経験はなくとも、熱心さがあれば何でもいい」

猪飼委員：スピーチは高校でも上手にできている。小学校からの積み重ねでできてい

るものだと感じる。ただ、気になるのは、なんとなく無難な話をし、深いところでの議論は起こらないような内容が多いように感じる。

笠原委員長：宮下先生は授業をされていて、どう感じられているか。

宮下委員：スピーチに関しては、1分間話せない子が多い。話せない子に関しては、話すことに慣れる場になるようにしている。項目立てた指導が必要と感じる。

猪飼委員：その指導の成果が高校にもつながると思う。

笠原委員長：地道な努力が必要。また、家庭学習のやり方を学校ホームページで公表している取り組みも非常によいと思う。

違ったことを認め合える環境を年度当初からやっていくことが大切である。

(4) 卒業式練習の参観

(5) 協議「次年度の学校教育に向けて」

笠原委員長：学校作成の「社会に開かれた教育課程」にあるように、このような関わりを増やしていけたらいいと思う。

檀浦校長：学校は地域の方や高校生にだけとありがたい。しかし、お願いするには前もって計画する必要がある。コロナの影響で、1月に予定されていた1年生と長寿会の昔あそびは中止となったが、道具の材料を提供くださり、それに対してお礼の手紙を渡すなどの交流はもつことができた。

笠原委員長：来年はこういうつながりをつくっていけたらいい。

山本委員：PTAからですが、学校の電話に録音機能をつけるといいと思う。欠席、遅刻連絡はメールで行っていると思う。電話をかけた際に、録音する旨を聞くと、話す方も感情が落ち着くと思う。

藤井委員：地域行事は復活させていく。もちっ子ひろ場でも子どもを巻き込んでいきたい。1年生が行う「9月：生き物大好き」にも参加していきたいので、声をかけていただきたい。インクルーシブ教育も大切なので、小学校とえびな支援学校が関わり合うのは大切だし、自治会もそこに関わっていききたいと思う。

笠原委員長：いじめ方針があったが、いじめは実際にあったか。

檀浦校長：今年は大きなものはないが、子どもたちが嫌だと感じたものはすべていじめと捉えているので、細かなものは増えている。ただ、話を聞いてみるとほぼ解決するような内容が多い。

【閉会挨拶】

笠原委員長：とてもいい協議会だったと思う。子どものために、子ども中心に据えた学校教育を皆さんと共につくっていけたらと思う。今後も学校と子どもたちのためによりしく願います。